

☆リサイクルセンターたより☆

朝夕めっきり寒くなり、ストーブの暖かさが恋しくなってきました。恵みの秋となり、おいしそうな柿、りんご、芋 大根など秋の果物、野菜や新米が店先にたくさん並びはじめました。この夏は台風の影響で、値段が高かった物も、秋になるとお手頃な値段になってきたのではないのでしょうか？

ありがたいことに、リサイクルセンターの常連さんの中には富山市郊外で農業を営んでいる方も時々来所され、売り物にならないちょっとゆがんでいたり、傷のある作物がたくさんあって、もったいないが捨てるしかないけど、ラッコハウスでいかが？

と声をかけていただいたのが始まりで、それ以来毎年、秋になると、リサイクルセンターに来られる度に、いろんな作物をいただき、とかく野菜不足（野菜嫌い）のラッコハウスのみなさんの口に合うように料理をして、毎日おいしくいただいております。すばらしい作物ばかりで、どこがB品なのかかわからないのですが、商品にならないなんて、食べれば味は一緒なのに、商品価値と値段のバランスを商品の見た目が基準となるのは、誰が考えてもおかしなことです。最近、曲がったり傷があったり少々色が悪かったりする野菜を格安で販売している店屋があり、消費者にとっても生産者にとっても助かります。最も大切なことは、自然の大地と太陽の恵みを得て一生懸命育った実こそが、一番喜んでいるのではないのでしょうか？ 自然の営みの中で、野菜も含めて自然の命を頂いて、人は生きていることを思えば、頂いた命を粗末にはできず、感謝の気持ちをもって頂きたいと思います。

11月カレンダー

9日(日) 資源回収
10日(月) 代休

※12月の資源回収は、7日(日)の予定です

社会福祉法人ラッコハウス

ラッコハウスをそだてる会事務局

〒939-8003

富山県 富山市 西公文名町 4-17

電話 076-493-0250

FAX 076-493-4441

Eメール raccohouse@pop21.odn.ne.jp

Web http://www2.odn.ne.jp/raccohouse/

みなさまのお声を
お待ちしております！

あなたも「ラッコハウスをそだてる会」(後援会) 会員に！

ラッコハウスの活動に賛同される方に、ぜひご支援していただけますようお願いいたします。

年会費 ●個人 一口 3,000円 ●団体 一口 5,000円

口座 郵便振替 00730-3-12867 (ラッコハウスをそだてる会)

会員の方には、この機関紙「宇宙」を毎月お送り致します。



11 月号

- 1: 機能訓練
- 2: 20数年ぶりの仲間
- 3: 皆様方からのご好意に感謝
- 4: リサイクルセンターたより

機能訓練 (リハビリテーション)



(左から、野見山さん、江崎(理学療法士)、小川さん)

火曜日と水曜日の午前に訓練士が、機能訓練が望ましい仲間に、一人ずつ順次機能訓練を行っています。他の日は訓練士からやってみてくださいといわれた課題を自主的にやったり、スタッフとリクレーシヨンの運動をちょっとやったりしています。

訓練の内容は、その人に合わせて、一人ひとり様々です。

時間は短かくても量が少なくても、適切な課題をなるべく毎日、回数を多く継続していけるのが大事です。

20年ぶりの仲間 吉岡 大輔さん

以前、福祉サービスが措置制度によって行われていた当時、施設入所した場合、その施設内にて24時間のケアを受けることになっていました。

2008年、障害者自立支援法後の施設入所支援は、入所する障害者に**主として夜間において**入浴・排泄等又は食事の介助等を供与するとし、原則として夜間の生活の場を保障するという内容に変わりました。

吉岡 大輔さんは、1991年共同作業所ラッコハウスが発足して数年後に、高志養護学校（現、高志支援学校）高等部を卒業後、通所されておりましたが、



お茶会にて後輩たちのおもてなしを受ける吉岡さん
(右から2番め)

稲垣さん、
織田さん、
吉岡さん、
副田さん

ご家庭の事情により高志療護ホーム（現高志ライフケアホーム）に入所され、現在に至っております。それが前述した法改正により、20年来ず〜っと思い続けていた「ラッコハウスに行きたい」という念願がかない、10月より毎週金曜日にラッコハウスを利用することになりました。吉岡さんは、あまりにもラッコハウスの利用者さんたちのにぎやかさと元気さに目を丸くして圧倒されっぱなしです。

今後もラッコハウスは、長年施設入所されている方々の地域社会参加を応援したいと考えています。



皆様方のご好意に感謝いたします

「リサイクルセンターだより」にて記しております様に、常連さん達より時々いただいたお野菜をお料理して、昼食の一品に加えさせていただいています。写真は、大根の葉を細かくきざんで、ごま油で炒めているところです。



左から、
北村(スタッフ)
織田さん

いただいたお野菜を、利用者みなさんに全部おいしく食べていただくこと、いろいろ工夫しております。例えば、冬瓜は若い人たちにとってはあまり好みではないようなので、クリーム煮やカレー煮にすると、おどろく程の人気メニューとなり、またたくまになくなってしまいます。又、野菜の皮をむいたり切ったりする作業は将来グループホームでの生活を予定されている方々の、料理の練習に役立たせていただいております。

ラッコハウスでは、皆様方からのご好意をありがたく活用し、役立てております。

ラッコハウスをそだてる会 後援会通信

■ 10月度 新規・更新会員
高嶋尚子様 米澤博様 鍛治本一朗様

■ ご寄付をいただきました
富山友の会様
【物品】吉岡様、林進様、加藤様、小川様
以上、10月20日現在、順不同
どうもありがとうございました。